



BOM for Windows Ver.8.0

朝監視レポート機能

ユーザーズマニュアル

免責事項

本書に記載された情報は、予告無しに変更される場合があります。セイ・テクノロジーズ株式会社は、本書に関していかなる種類の保証（商用性および特定の目的への適合性の黙示の保証を含みますが、これに限定されません）もいたしません。

セイ・テクノロジーズ株式会社は、本書に含まれた誤謬に関しての責任や、本書の提供、履行および使用に関して偶発的または間接的に起こる損害に対して、責任を負わないものとします。

著作権

本書のいかなる部分も、セイ・テクノロジーズ株式会社からの文書による事前の許可なしには、形態または手段を問わず決して複製・配布してはなりません。

商標

本ユーザーズマニュアルに記載されている「BOM」はセイ・テクノロジーズ株式会社の登録商標です。また、本文中の社名、製品名、サービス名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

なお、本文および図表中では、「TM」（Trademark）、「(R）」（Registered Trademark）は明記しておりません。

目次

本書について

製品表記

使用方法

環境説明

第1章 朝監視とは

第2章 朝監視の仕組み

第3章 動作環境

第4章 出力内容

第5章 設定方法

1. 出力対象の指定
2. モジュールの展開配置とテンプレートのインポート
3. 朝監視レポート作成アクションの実行ファイル指定
4. 朝監視レポート送信アクションのメールアドレス設定
5. 実行方法とスケジュール

第6章 朝監視レポートの説明

1. 全般
 2. ドライブ状態
 3. サービス状態
 4. 直近12時間分のイベントログ（警告以上）：System
 5. 直近12時間分のイベントログ（警告以上）：Application
 6. 直近12時間分のBOMヒストリーログ（警告以上）：サービス
 7. 直近12時間分のBOMヒストリーログ（対象のログのみ抽出）：監視
 8. 直近12時間分のBOMヒストリーログ（対象のログのみ抽出）：アクション
-

本書について

製品表記

本書では、以下の製品について略称を使用しています。

正式名称	本マニュアルでの呼称（略称）
BOM for Windows Ver.8.0 SR1	BOM 8.0

使用方法

本書には、BOM 8.0の「朝監視レポート機能」についての詳細を記載しています。

- BOM 8.0のインストールに関しては'BOM for Windows Ver.8.0 インストールマニュアル'を参照してください。本書はBOM 8.0のインストールが正常終了したことを前提として、「朝監視レポート機能」の設定および使用方法について記述しています。
- このユーザーズマニュアルを使用するには、Microsoft WindowsオペレーティングシステムやBOM 8.0についての実践的な知識が必要です。
- 本書に更新・訂正などが生じた際は、弊社ウェブサイト上で情報を公開しますので、あわせて参照してください。

環境説明

本書では、コンピュータの操作画面として、主にWindows Server 2022で取得した画像を使用しています。お使いの OS によって表示内容が若干異なる場合がありますが、適宜読み替えてください。

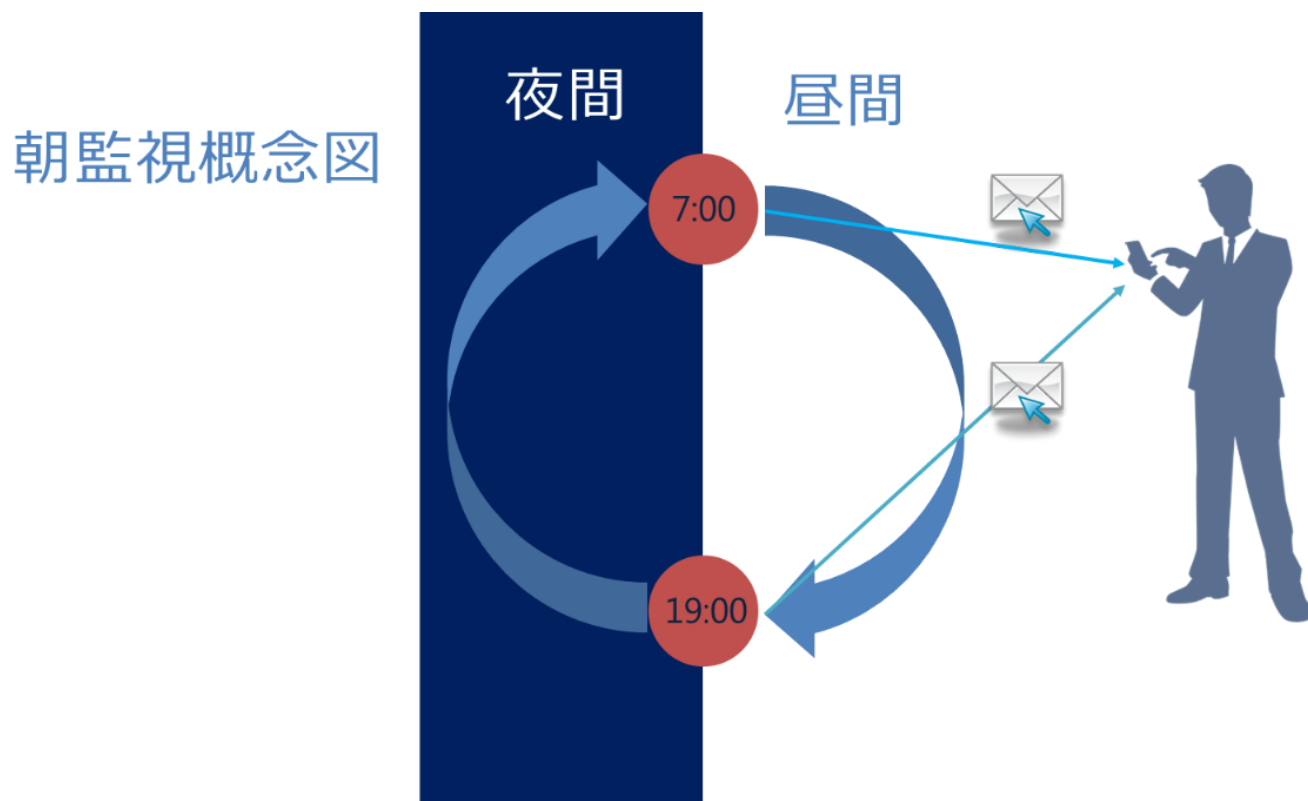
第1章 朝監視とは

システム管理者は、障害時の対処に加えて、前日の退社後から朝の出社までにサーバーがどのような状態にあったか、そして今の状態がどうであるかの把握を必要とされる場合があります。しかしながら、出社後ただちに多数のサーバーを1台1台確認し、必要な情報を収集・分析するのは簡単な作業ではありません。

BOM for Windowsではこの朝の確認作業を"**朝監視**"と呼び、BOM 8.0では朝監視に必要な情報をあらかじめレポート化してシステム管理者に届ける「**朝監視レポート機能**」を提供します。この機能により、システム管理者は退社後のシステム状態の変化や朝の状況を素早く把握でき、余裕をもって業務に取り組む事ができます。

朝監視レポート機能を設定すると、12時間おきにシステムや監視のログ、サービスの状態やディスクリソースの状態をレポート化し、メールでシステム管理者に届けます。この仕組みによってシステム管理者は日に2回、システムの状態を見やすいPDF形式の朝監視レポートで確認することができます。

※ 既定値では、朝監視に必要な19時から翌7時までの情報と、7時から19時までの日中の稼働状況が送信されます。



第2章 朝監視の仕組み

朝監視レポート機能は、BOM 8.0のテンプレートと専用スクリプト、レポート作成エンジンなどを組み合わせて実現しています。

- 「朝監視レポート」テンプレート
 - 「システム状態をレポート化するカスタムアクション」、「作成された朝監視レポートを送信するメール送信アクション」の2つのアクションと、それらを朝夕に定時実行するための監視項目から構成されています。
- 専用スクリプト、レポート作成エンジン
 - 専用スクリプトは朝監視レポートの作成に必要な情報を収集し、レポート作成エンジンは収集した情報からPDF形式のレポートを出力します。
 - これらは「朝監視レポート」テンプレートに含まれるカスタムアクションから実行されます。

また、朝監視レポートに含める監視項目、アクション項目、通知項目のログは、システムの監視用途に応じて自由に選択できます。

第3章 動作環境

朝監視レポート機能は以下の条件を満たす環境で動作します。

- BOM 8.0の基本パッケージがインストールされており、正常に動作している必要があります。
- 朝監視レポート機能は、ローカル監視（自立分散監視）インスタンスのみで動作します。
代理監視インスタンスを対象とした朝監視レポートの出力には対応しません。
- 本ツールを実行する際は、以下のPowerShellでスクリプトが実行できる必要があります。
 - PowerShell 5.1 以降

第4章 出力内容

本監視設定でメール送信されるレポート内容は以下のとおりです。

詳細は'[朝監視レポートの説明](#)'を参照してください。

- ドライブ状態
 - 論理ドライブの容量
- サービス状態
 - サービス監視で監視しているサービスの稼働状態（※1）
- 直近12時間分のイベントログ（警告以上）
 - System
 - Application
- 直近12時間分のBOMヒストリーログ
 - サービス（※2）
 - 監視（※3）
 - アクション（※3）

※1 レポート生成に必要な情報を収集した時点で、直近に実行されたサービス監視の結果から稼働状態を判定します。

※2 タイプが警告以上のログを出力します。

※3 指定した監視項目、アクション項目、通知項目の結果のみがレポート出力の対象となります。対象を指定する方法は'[出力対象の指定](#)'を確認してください。

第5章 設定方法

以降の操作は、朝監視レポートの対象とする監視インスタンスが登録された、BOM 8.0の動作するコンピュータ上で実施してください。

1. 出力対象の指定

朝監視レポートの「直近12時間分のBOMヒストリーログ（対象のログのみ抽出）：監視」および「直近12時間分のBOMヒストリーログ（対象のログのみ抽出）：アクション」では、事前に指定した監視項目とアクション（アクション項目および通知項目）のログのみが出力の対象となります。

出力対象は、各項目名の先頭に「@」（半角アットマーク）を付けることで指定できます。以下の手順で実施してください。

1. BOM 8.0 マネージャーを起動して接続します。
2. 朝監視レポート作成対象の監視インスタンスで、出力の対象とする監視項目、アクション項目、通知項目のプロパティを表示します。
3. 「名前」欄で項目名の先頭に「@」（半角アットマーク）を付けます。

監視項目の記述例：

「プロセッサ監視」 → 「@プロセッサ監視」

アクション項目の記述例：

「サービスコントロール」 → 「@サービスコントロール」

通知項目の記述例：

「メール送信（監視結果）」 → 「@メール送信（監視結果）」

4. 「OK」ボタンをクリックしてプロパティを閉じます。

2. モジュールの展開配置とテンプレートのインポート

1. 朝監視レポート機能のzipファイルを展開し、その中に含まれる「BOM_DailyReport」フォルダーを任意の場所に保存します。
 - 以降の手順では、「BOM_DailyReport」フォルダーをCドライブのルートディレクトリに保存した前提で説明します。
2. BOM 8.0 マネージャーを起動して接続します。
3. 朝監視レポート作成の対象とする監視インスタンスを右クリックします。
4. メニューから"監視設定のインポート"を選択します。
5. 手順1.で保存したフォルダー内に格納されている、以下のcabファイルを指定してインポートします。

朝監視レポート.CAB

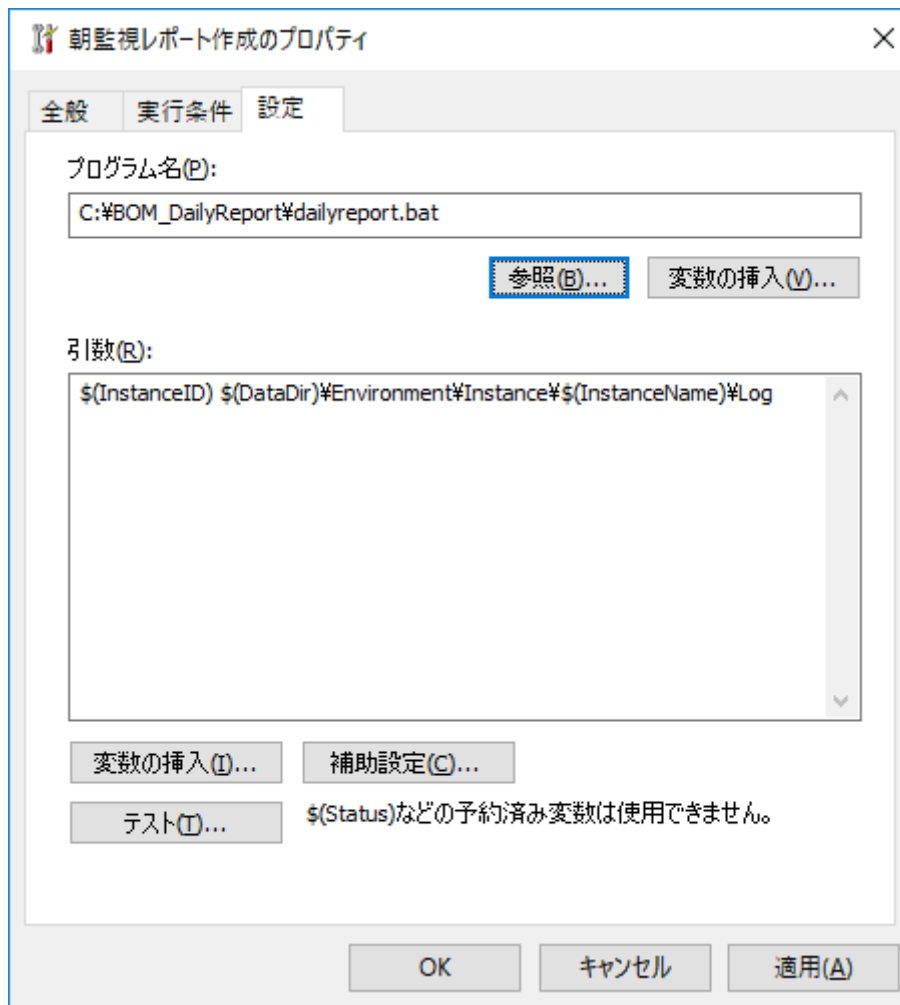
3. 朝監視レポート作成アクションの実行ファイル指定

レポートを作成するためのアクションに対して、保存した専用スクリプト（batファイル）を指定します。

1. BOM 8.0 マネージャーを起動して接続します。
2. 対象の監視インスタンス → 「監視」ノード → 「朝監視レポート（監視グループ）」を順に展開します。
3. 「朝監視レポート（監視項目）」をクリックし、リザルトペインに表示された 「朝監視レポート作成」をダブルクリックします。
4. 朝監視レポート作成のプロパティで、「設定」タブを開きます。
5. [参照]ボタンをクリックし、'[モジュールの展開配置とテンプレートのインポート](#)'で保存したフォルダー内に格納されている以下のファイルを指定します。

dailyreport.bat

- 下図の例では"C:¥BOM_DailyReport¥dailyreport.bat"になっています。



6. 他の項目は変更せず、[OK]ボタンをクリックします。

4. 朝監視レポート送信アクションのメールアドレス設定

朝監視レポートを送信するためのメール送信アクションを設定します。

- メール送信を使用する際は、あらかじめSMTPサーバーを設定する必要があります。SMTPサーバーの設定方法については、'BOM for Windows Ver.8.0 ユーザーズ マニュアル'で「SMTP 情報の設定」を参照してください。
- メール送信アクションの詳細については、'BOM for Windows Ver.8.0 ユーザーズ マニュアル'を参照してください。

1. BOM 8.0 マネージャーを起動して接続します。
2. 対象の監視インスタンス → 「監視」ノード → 「朝監視レポート（監視グループ）」を順に展開します。
3. 「朝監視レポート（監視項目）」をクリックし、リザルトペインに表示された「朝監視レポート送信」をダブルクリックします。
4. 朝監視レポート送信のプロパティで、「設定」タブを開きます。
5. 「宛先アドレス」欄に、送信先のメールアドレスを設定します。
 - SMTPサーバー設定が複数ある場合は、使用するサーバーを選択してください。
 - 複数の送信先を指定する場合は、カンマ区切りで入力してください。

The screenshot shows the 'Morning Monitoring Report Sending Properties' dialog box with the 'Settings' tab selected. The 'SMTP Server Selection' section has 'SMTP Server 1(O)' selected. The 'SMTP Server' field contains 'smtp.sample.saytech.jp' and the 'Sender' field contains 'bom@bom.mail'. The 'Destination Address(D):' field contains 'sample@say-tech.jp'. The 'Subject(S):' field contains '\$(InstanceName) : \$(GroupName)通知'. The 'Message(M):' field contains '朝監視レポートを送信します.'. There is a 'Variable Insertion(V)...' button at the bottom right of the message field. At the bottom of the dialog are 'OK', 'Cancel', and 'Apply(A)' buttons.

6. 他の項目は変更せず、[OK]ボタンをクリックします。

5. 実行方法とスケジュール

朝監視レポートの対象となる監視インスタンスで監視サービスを開始すると、定期的（既定値では7時と19時）に朝監視レポートが作成されて、指定した送信先にメールで送付されます。

送信時間を変更する場合は、以下の手順で「朝監視レポート（監視項目）」の監視間隔を変更してください。

- 実行間隔（12時間）と、実行回数（1日2回）は変更できません。
1. BOM 8.0 マネージャーを起動して接続します。
 2. 対象の監視インスタンス → 「監視」ノード → 「朝監視レポート（監視グループ）」を順に展開します。
 3. 「朝監視レポート（監視項目）」を右クリックし、メニューから「プロパティ」を選択します。
 4. 「開始時刻」エリアの時刻を指定する欄（既定値: "19:00:00"）で、実行時間を指定します。
 - 指定時刻の年月日は過去日付に設定されていますが、この内容は変更しないでください。
 - 指定した時間または、12時間後の時間（例: 19時に設定された場合、19時または7時）になった時点で1回目のレポート作成と送信が実行され、その後は12時間おきに実行されます。

朝監視レポートのプロパティ

全般 設定 ヒストリーログのテキスト検索 拡張処理 しきい値

名前(N): ☐ 有効(E) 朝監視レポート

ID(I): GRP04MON01

コメント(C):

間隔(V): 12 時

開始時刻: ☐ サービスの開始直後(M) ☒ 指定時刻(T): 2016/12/13 19:00:00

☒ 監視間隔を固定する(K) ☐ 監視予定時刻を過ぎた場合に臨時実行する(R)

監視予定時刻に監視サービスが停止していた場合、監視サービス起動直後に臨時で監視を実行します。

OK キャンセル 適用(A)

5. 他の項目は変更せず、[OK]ボタンをクリックします。

第6章 朝監視レポートの説明

【出力例】

朝監視レポート

SAYTechnologies

データ採取日時：2024/02/14 19:00:01

◆ 全般

BOMインスタンスID

SAY-demo

◆ ドライブ状態

ドライブ名

C:

ファイルシステム

NTFS

空き容量

20.17GB

総容量

39.45GB

48%

◆ サービス状態

監視ID	監視名	サービス名	最終監視実行日時	サービス状態
GRP04MON01	Server 監視	lanmanserver	2024/02/14 18:59:43	開始
GRP04MON02	Remote Procedure Call (RPC) 監視	RpcSs	2024/02/14 18:59:43	開始
GRP04MON03	Windows Management Instrumentation 監視	winmgmt	2024/02/14 18:59:43	開始

◆ 直近12時間分のイベントログ(警告以上): System

日時	レベル	ソース	ID	メッセージ
2024/02/14 13:01:18	エラー	Microsoft-Windows-DistributedCOM	10016	アプリケーション固有 のアクセス許可の設定では、CLSIDs

出力される朝監視レポートの各項目の内容は以下のとおりです。

1. 全般

朝監視レポートを作成した対象のインスタンス名を出力します。

2. ドライブ状態

対象インスタンスに接続された論理ドライブの情報を出力します。

3. サービス状態

対象インスタンスのサービス監視で監視しているサービスの稼働状態を出力します。

- 朝監視レポート作成に必要な情報を収集した時点で、直近に実行されたサービス監視の結果から稼働状態を判定します。
- サービス監視の実行に失敗している場合、「サービス状態」は「N/A」と表示します。
- 朝監視レポート作成時点で一度も実行されていないサービス監視については、「サービス状態」に「なし」と表示します。

4. 直近12時間分のイベントログ（警告以上）：System

対象インスタンスのシステムイベントログについて、警告、エラー、重大レベルのものを出力します。

5. 直近12時間分のイベントログ（警告以上）：Application

対象インスタンスのアプリケーションイベントログについて、警告、エラー、重大レベルのものを出力します。

6. 直近12時間分のBOMヒストリーログ（警告以上）：サービス

対象インスタンスの「BOM ヒストリーログ」-「サービス」に記録された、警告、エラーレベルのログを出力します。

7. 直近12時間分のBOMヒストリーログ（対象のログのみ抽出）：監視

対象インスタンスの「BOM ヒストリーログ」-「監視」について、出力対象に指定（※）した監視項目のログを出力します。

※ 指定方法については'[出力対象の指定](#)'を参照してください。

8. 直近12時間分のBOMヒストリーログ（対象のログのみ抽出）：アクション

対象インスタンスの「BOM ヒストリーログ」-「アクション」について、出力対象に指定（※）したアクション（アクション項目、通知項目）のログを出力します。

※ 指定方法については'[出力対象の指定](#)'を参照してください。

BOM for Windows Ver.8.0 朝監視設定ユーザズマニュアル

2024年2月29日 初版

著者・発行者・発行

セイ・テクノロジーズ株式会社

バージョン Ver.8.0.10.0

(C) 2024 SAY Technologies, Inc.